

# ジャマルッディーン・アフガーニーの政治思想と彼を取り巻く諸言説

平成 18 年度入学  
派遣先国：パキスタン  
平野 淳一

キーワード：アフガーニー、現地語、史資料収集、図書館、研究教育機関

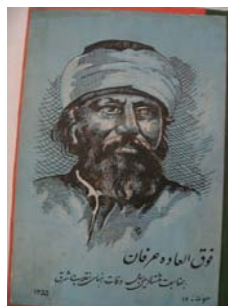
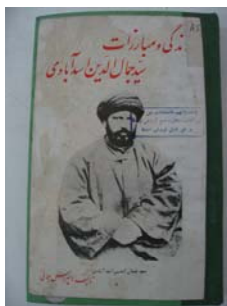
## 対象とする問題の概要

本研究は、ジャマルッディーン・アフガーニーの政治思想及び彼を取り巻く諸言説に焦点を当て、現代イスラーム世界におけるその影響を検証するものである。

彼は、十九世紀後半のエジプトやイラン、アフガニスタンといった諸国で反西洋帝国主義運動を扇動した国際的革命家として位置づけられ、その政治思想は今日のイスラーム世界に至ってなお、イスラーム復興を目指す知識人によって繰り返し参照され生き根付いている。この意味で、彼は現代イスラーム世界におけるイスラーム復興を思想的に議論するにあたって欠かすことのできない存在であり、一つの知的核心を構成しているといっても過言ではない。そのような彼を、しかしながら、日本また欧米のイスラーム研究はこの三十年に亘って等閑に付し続けてきた。

## 研究目的

本研究は、今日のイスラーム復興の思想的理解の一助を提供するため、第一に彼の政治思想の解析を試み、第二に後代の彼をめぐる諸言説を分析して、彼を基点とするイスラーム政治思想の系譜的概観を試みる。とりわけて後者を重視し、近年のエジプトを中心とするアラブ世界、イラン、アフガニスタンにおけるアフガーニー研究を押さえ、そこにみられる特徴を指摘することで現在のイスラーム世界の置かれている知的状況を総合的に考察する。同時に、西洋におけるアフガーニー研究も押さえることで、洋の東西を横断してアフガーニーを中心に構築されてきた言説空間の機制を明らかにする。



[ペルシア語、ウルドゥー語、ダリー語で書かれたアフガーニー研究書]

## フィールドワークから得られた知見

本調査では、おおよそ二週間の期間にわたり、パキスタンの主要都市を中心にフィールドワークを実施した。その概要は、以下の二点にまとめられる。第一に、現地の書店や図書館を訪問し、関連史

資料の購入・複写・撮影をおこなったことであり、第二に、現地の研究教育機関の研究者へインタビューを実施し、知的交流を図ったことである。とりわけ首都イスラマバードでは国際イスラーム大学付属図書館を、ラーホールではパンジャブ大学オリエンタル・カレッジと同大学付属中央図書館を、ペシャーワルではペシャーワル大学付属中央アジア地域研究所を訪問し、当局の研究者へのインタビューや大学生、大学院生との交流を果たした。

以上の二点の概要から、両者に共通する以下の二点の知見を得ることができた。第一に、現地における人脈構築の重要性である。地域研究を志すものにとっては、現地の情報を直接に所持する特定の現地人と信頼関係を形成・発展させておくことほど、実際のフィールドワークにおいて心強いものはない。本調査の過程で書店や大学図書館、研究機関へ足繁く通いつめたことは、店主や図書館関係者、現地研究者らとの間に関係の構築とその深化をもたらし、今後の持続的なフィールドワークに向けての橋頭堡となった。

第二に、現地語の習得の重要性である。現地の研究者や庶民と意思疎通を図る際、公用語である英語と現地の言葉とでは、報告者に対する構えが明らかに異なることに気がついた。そもそも、その地域の動態する現実に貫通する内的な構造を最深部から掘り上げて明らかにすること、それが地域研究に課せられた、あるいは自らの課した根源的な責務であるはずである。それゆえ、地域の論理をより直接反映する現地語を疎かにすることは許されない。前回の調査に引き続き、そのことを改めて考えさせられた。



[国際イスラーム大学付属図書館 於イスラマバード]

### 今後の展開・反省点

本調査の背景には、当初渡航先にアフガニスタンを予定していたものの、直前になって同国で政変が勃発したため、急遽隣国パキスタンに渡航先を変更したという事情がある。今後の展開としては、アフガニスタンでフィールドワークを実施して同国で資料収集を試みるとともに、アフガニスタンにとって同国の果たした意義を現地に身を置きながら考究してみたい。

反省点としては、第一に、文献史資料の輸送手続きにおいてたびたび紛糾したことである。これは端的に、報告者が現地の通信・輸送手段に余りにも疎かったことに由来する。本研究にとって、文献史資料の存在は研究を遂行する上で生命線となる。その史資料の取り扱いに手古摺ったことは、研究者としては未だ二流に過ぎないことを自覚させるものであった。

第二に、体調管理に失敗し、貴重な滞在期間の一部を棒に振ったことである。現地で病を患うこともフィールドワークならではの開き直すことはできる。しかし、そのことと引き換えに史資料収集にあてる時間を失った損害は、あまりにも大きい。「体は資本」ということを改めて痛感した次第である。



[現地の研究者らと 於パンジャーブ大学, ラーホール]